

我が班の安全活動

—連続無災害4,000日達成と更なる記録を目指して—

三陸中部森林管理署 栗橋森林事務所森林官 永瀬 和
 大槌森林経営センター 澤 館 新一
 ○大槌森林経営センター 佐々木 市三

1. はじめに

当森林管理署は、岩手県三陸沿岸南部に位置し、3市3町にわたり約2万9千ヘクタールの国有林を管轄している。そのうち我が班は、大槌森林経営センター部内の大槌・栗橋・釜石の3森林事務所内において、基幹作業職員6名が造林及び収穫調査等の作業に従事している。

図-1 三陸中部森林管理署位置図



2. 課題を取り上げた背景

平成元年9月19日に発生した、収穫調査実行中の鉈による災害を起し、平成元年の3班計9人体制から平成10年に1班6人と編成された経緯の中で、現在に至るまで全職員一丸となって安全対策に取り組んできた結果、平成12年8月に、連続無災害記

表-1 森林事務所別作業班推移表

年度 \ 班名	平成元		平成4		平成7		平成10		平成12	
	班	人員	班	人員	班	人員	班	人員	班	人員
大槌	1	4	1	4	1	4	1	6	1	6
栗橋	1	2	1	2	—	—	—	—	—	—
釜石	1	3	1	3	1	3	—	—	—	—
計	3	9	3	9	2	7	1	6	1	6
無災害日数	0日		1000日		2000日		3000日		4000日	

録4,000日を達成し新たな目標4,500日を設定した。その中で、今年度早々に衛星携帯電話が導入され、安全管理連絡体制の強化が図られた。そこで、連続無災害記録4,000日達成の成果と衛星携帯電話の効果を検証し、その結果を今後の安

全活動に活かし連続無災害の更なる記録4, 500日を目指すこととした。

3. 取り組み状況

平成元年の災害以来、無災害1,000日達成時と3,000日達成時の安全活動を振り返り検証を行い、よりよい安全活動をすすめるため改善や改良を行ってきた。それらの安全活動を日・月単位に追って検証してみることにした。

今年度の事業実行予定箇所の通信可能地点において、無線と衛星携帯電話による通信方法と連絡体制とを比較し、どの程度の差があるかを検証し、衛星携帯電話の有効性等を連動させ、安全管理体制の強化とその定着化を図ることとした。

(1) 毎日の安全活動

毎日習慣付けて取り組んできた安全活動の一日の流れを通し取り上げてみることにした。

ア. 始業時のミーティング

集合解散場所において、今日の作業手順や作業内容における危険予知に安全日誌（ヒヤリハット）を活用し班全員で考察を行っている。また、ミーティング時の取り組みとして、特定の者の一方的な発言で終わらないように一人一言を実践している。

写真-1 始業時のミーティング



写真-2 朝の林業体操



イ. 作業開始前の林業体操

作業現場に到着し作業開始前に体をほぐすため林業体操を行っているが、班の平均年齢が55歳と高齢の為に、冬期間の作業の場合は体を温めるなど、個々人体調に配慮しながら取り組んでいる。

ウ. 作業中の安全活動

作業中は、各事業の安全作業基準に沿って作業を遂行している。また、連続無災害3,000日達成した際の検証結果でヒヤリハットの発生時間帯が11時～12時と14時～15時の

午前中の終わりや午後の中間に多く発生していることから、作業中に声を掛け合う中でも特に意識して声を掛け合うよう心掛けている。

写真-3 作業中の安全の呼びかけ



エ. 終業時のミーティング

作業終了時のミーティングでは、今日の作業の内容を検証し、安全日誌の記入や意見交換を行うとともに、帰路の歩行にも注意を払っている。

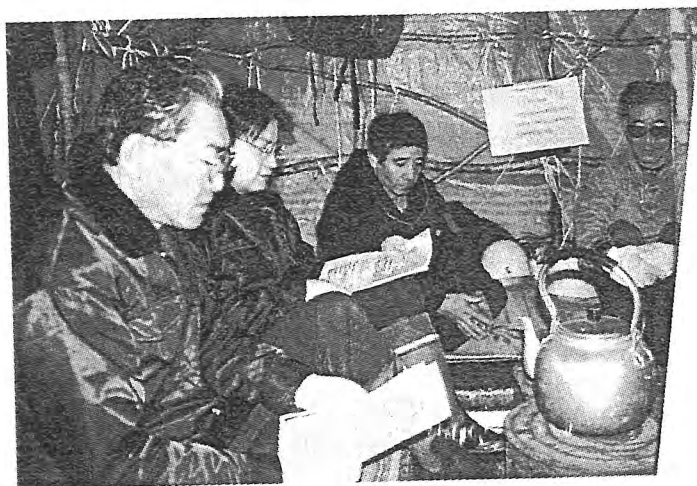
(2) 毎月の安全活動

日頃行っている安全活動の他に月単位で行う安全活動についても取り上げ検証してみる。

ア. 月始めの安全指導

毎月1日を安全の日とし毎月の目標を掲げ、当月の新しく行う作業手順の確認やそれに係わる災害要素を取りあげ、それらを取り除く為に災害速報や安全日誌を活用した安全懇談会を実施している。

写真-4 安全懇談会風景



イ. 当月作業箇所の通勤路等の点検・整備

作業地への移動の際や作業地の危険箇所については「視覚に訴える安全」への取り組みとして、スプレー・ロープ・手製の旗等を表示し、注意の喚起を図っている。

写真-5 通勤路の危険表示



ウ. 簡易休憩小屋の設置

作業地周辺に間伐材等を利用した簡易休憩小屋を設置し、疲労回復に努めている。

エ. 管理医の巡回衛生指導

毎月第4水曜日の午後に県立大槌病院から管理医を招いて健康管理等の指導や相談をする事によって、自己の健康状態の把握が出来毎日の作業にも安心して取り組むことが出来る。なお、今年度は毎月かかさず実施している。

写真-6 管理医による血圧測定



(3) 衛星携帯電話と無線による比較結果

今年度導入された衛星携帯電話を使用し、従来使用してきた無線との比較をしてみる。また、比較の際に衛星携帯電話を使用することにより通信技術の定着化を図ることとする。

ア. 通信可能範囲の比較

県道から作業現場までの無線通話可能地点と衛星携帯電話通話可能地点を調査し、図面上に落とすと次のような結果が見られた。従来の無線では、ほとんどが県道入口から林道内へ入ると通話が出来なかったが、衛星

図-2 通信可能範囲図



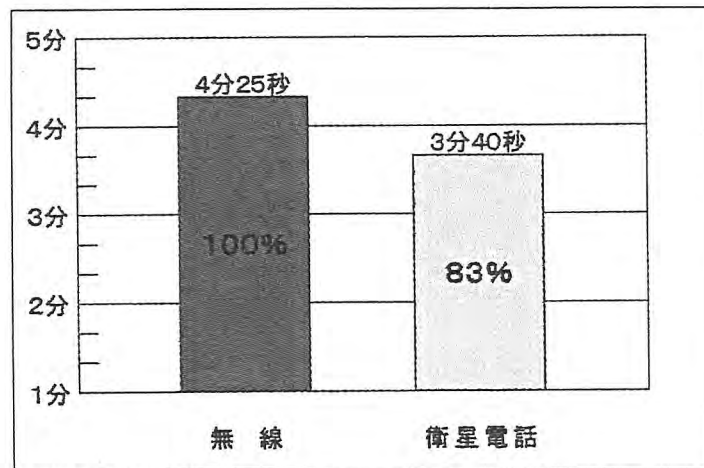
携帯電話は、林道終点まで通信可能であり、作業現場や作業現場までの歩道上でも林相が鬱閉していない限り通話可能であった。

イ. 通信時間の比較

災害発生時連絡表より同文を通話した場合衛星携帯電話の方が2割ほど通話時間が少なかった。

表-2 通話時間比較表

無線の場合は一方が話し一方が聞くと言った方法であり、会話を切り替える操作を踏まえて考えると、衛星携帯電話に比べて通話時間が長くなってしまう。



4. 研究の結果

これらの安全活動を踏まえて全班員により安全懇談会を開き、意見を取りまとめてみると次のような結果が得られた。

衛星携帯電話による通信方法は、無線に比べ簡易であること及び通信範囲の広さや作業現場に直接持ち込むことが可能であり、通信場所への移動時間が短縮されることにより、通信連絡体制が格段に向上したという意見や、通話の際にノイズが入る無線よりも音質がよく会話も聞き取りやすく、通信操作方法が普通の電話に類似しているため簡易であると言った良い意見が得られた。しかし、重量が4.3kgと重いことや

バッテリーの容量が気になると言った意見も出された。

また、実際の通信連絡時間を比較・検証するための実地訓練を踏まえ、全班員により発表結果を取りまとめることによって、安全に対する自覚や安全管理体制の強化とその定着化を図ることが出来た。

表-3 無線・衛星電話比較表

	メリット	デメリット
無線	<ul style="list-style-type: none"> ・移動中の通信可能 (搬送中に随時通話可能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信可能地点が作業地から遠い (通信地点まで移動時間がかかる) ・通信時にノイズが入ってしまう
衛星携帯電話	<ul style="list-style-type: none"> ・通信範囲が広い (作業地より通信可能) ・操作しやすい (切り替え動作が不要等) ・音質が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯するには、重量がある ・バッテリーの容量が不安 (電池の消費が早い) ・移動中の通話不能

5. 考察

今回、衛星携帯電話の導入により、作業現場から通信場所への移動時間が短縮され不安要素が解消された。しかし、災害を起こさないが大事であり、連続無災害記録4,000日達成の成果と不安要素の解消等を今後の安全活動に活かし、全班員が一体となって安全作業を推進し、連続無災害4,500日達成に向け、更なる記録を目指すため、より一層安全活動を推進する必要がある。

6. おわりに

大槌地区造林班全員の今後の抱負・目標を発表し終わりとする。

滝川 幸一 60歳まで本当にありがとう、仲間感謝するとともに退職まで「0」災害を続けます。

三浦 西松 足場足元の確認を更に徹底し、連続無災害をめざします。

滝川 正昭 ミニバスを運転しています、スピード控えめ、ブレーキ早めを「モットウ」に交通災害を起こしません。

菊池 マヨ子 安全推進委員として、今まで以上に目配り気配りに努め、災害の無い職場をめざします。

佐々木正太郎 ヒヤリハットを皆んなで報告しあい、災害の未然防止に努力します。

班長の佐々木市三です、我が班は特別な安全活動はしていませんが、ひとりひとりが絶対に災害を出さないとの自覚のもと、日々作業に努めて来ました今後もチームワークを大切にしながら、4,500日無災害達成と緑の山づくりに向け、先頭に立って邁進します。